

IT 活用実践事例

小学校
5 年算

きまりを見つけよう

実践者：美里町立中埴小学校 佐藤静香

1 学習の概要

キーワード

e - 黒板の活用

マルチPJカメラの活用

課題把握

考え方の発表

IT 活用のポイント

- ・ 課題把握を苦手とする児童が、視覚的に捉えやすくするために、問題場面をあらかじめ数え棒を並べた写真で提示する。
- ・ 考え方を発表する場面で、時間を有効活用するために、マルチPJカメラでノートを撮影し、e - 黒板に写して発表させる。

単元名

きまりを見つけ

単元の目標

変化する2つの数量を表に表すことを通して、数量関係や規則性を見付ける能力を高める。

本時の学習

きまりを見つけ

本時の目標

変化する2つの数量を表に表すことを通して、数量関係や規則性を見付ける能力を高める。

本時の活用コンテンツ

e - 黒板
マルチPJカメラ

補助資料

単元計画（1 時間扱い）

学習活動

変化する2つの数量を表に表すことを通して、数量関係や規則性を見付ける能力を高める。

- ・ 4本の棒で正方形を作り、それを横に並べていくとき、21本の棒では、正方形は何個できるか考える。
- ・ 表をかいて2つの数量の規則性を見付ける。
- ・ 正三角形の練習問題をやる。

学習活動における具体の評価規準

- ・ 2つの数量の変化のしかたについて、対応する数値を表に表すなどして問題を解決しようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・ 対応する数値を表した表から対応の規則性を論理的に考えている。（数学的な考え方）

本時の学習（45分）

学習活動

- 1 本時の問題と課題をつかむ。
- 2 ひごの本数を求める。
- 3 マルチPJカメラで各自の考えをe - 黒板にうつして、発表する。
- 4 適用問題をやる。
- 5 本時のまとめをする。

指導上の留意点

e - 黒板に何本かのひごを並べた問題場面をうつし、場面に関心をもたせる。
どの方法でも答えは31本になることを確認する。
多様な考えを認めながらも、表の有用性に気付かせ、活用を図るようにする。
実際に数えると大変なので、式を利用して逆算するとよいことに気付かせる。

2 実践のポイント！

課題把握を視覚的に

問題文を読むだけでは、どのようなことを問われているのか、どのように解決していけばよいのかを思い浮かべることが苦手な児童が多い。そこで、実物を並べてみせる、図にかいて見せるといった手だてを、あらかじめ画像として保存しておき、提示する。

集中力を高める

e - 黒板に写すことによって、子ども達の意識を集中させることができる。また、ペンで様々な色で書き込みができるので、重要なところを捉えさせることができる。

ノートをそのまま活用

発表場面では、早く終わった児童に、大きな紙や黒板に直接考え方を書き写させることが一般的だが、それが終わるまで待たなくてはならない。うまく書き写せないことがあると、時間のロスにつながり、発表結果を練り合うことができなくなる。そこで、ノートをそのままマルチPJカメラで撮影し、e - 黒板に写すことによって、時間を短縮し、より、児童の考えを深めることに使っていくことができる。

振り返り

途中で、問題場面を確認したくなったり、解き方をもう一度見たくなったり、簡単な操作で前に出した画面に戻ることができるので、何度も確認することができる。また、一度書き込んだことも、そのまま残しておくことができる。

また、学習の最後で、今日の振り返りをするときにもその機能を活用できる。

3 子どもたちは？

子どもの姿

e - 黒板は、算数に限らず、多くの教科で必要に応じて活用している。画像や文字情報を一度に見ることができ、集中して取り組む姿勢が見られる。また、自分の考えをそのまま全員に見せることができることも、子ども達にとっては、励みになり、学習意欲が高まるようである。

子どもの声

- ・ いろいろな人の考え方を見ることができて、勉強になる。
- ・ 自分の字を、もっと見やすく書かなくてはいと思う。